

異常に暑く大型の台風にも見舞われた今年の夏もやっと過ぎ去り、多摩キャンパスでは後期授業が落ち着いた雰囲気で始まっています。

さて、毎年六月に開催している白門経友会定期総会は今年で二十九回目となり、下段に記載のプログラムで実施し、審議事項は滞りなく了承されましたので報告させていただきます。

講演会終了後は、今回も生協三階



多摩キャンパスはようやく秋を迎えております。

西側へ移動し経友会のOBと現役学生・教員との交流を深め、懇親の場として会員相互の情報交換を行うことができました。

今後も総会以外でも学生を含めた交流の場を増やす所存ですので会員各位におかれましては、幹事会等へのご参加とともに一層のご協力をお願い申し上げます。



第一十九回 白門経友会 定期総会概要

日時 令和元年六月八日(土)午後二時開会

場所

中央大学多摩キャンパス七号館七二〇三教室

プログラム

一、定期総会(午後二時～二時四十五分)

- ①平成三十年度 事業報告・決算報告
- ②令和元年度 事業計画・予算案
- ③その他

二、記念講演会(午後三時～四時三十分)
演題 「情報化と社会」
—その歴史と今後の展望—

講師 佐藤文博 教授

中川康弘准教授が二〇一九年八月二十三日、留学生教育学会の第1回優秀論文賞を受賞しました。題目と講評は以下のとおりです。



中川 康弘 准教授が留学生教育学会の第十一回優秀論文賞を受賞しました

◇論文題目

留学生は学内でどのように自己存在を示そうとしているか—「まなざし」と対峙する学部留学生の語りから—『留学生教育』第23号

◇講評の概要

周囲からの「まなざし」をどのように捉え、それにどのように対処しているかを、留学生自身の語りを通して明らかにした本論文は、日本の大学におけるこれからの留学生教育のあり方を考える上で、意義は大きい。論旨が明快で新規性も高く、今後の研究が期待できる優れた論文として、学会誌編集委員会全員一致で優秀論文賞に選出されました。

二〇一九年度第一回日本語検定において、文部科学大臣賞を受賞しました

二〇一九年度第一回（通算二十五回）日本語検定において、中央大学が文部科学大臣賞を受賞しました。

経済学部生二十六名、法学部生一名の計二十七名が団体受験をし、その成績が優秀であったため今回の受賞となりました。受賞した学生は主に本学部の「入門 I C T 演習」「演习2」の履修生です。

「日本語」はコミュニケーションにおいて極めて重要なスキルと考え、積極的に本検定の受験を推奨した結果が今回の受賞につながりました。



賞状と盾は経済学部事務室に飾ってあります。

「国際開発論（林光洋教授担当）」の特別授業が実施されました

九月二十四日（火）三限の經濟学部「國際開發論（林光洋教授担当）」において、三井物産株式会社プロジェクト本部プロジェクト開発第二部第二営業室マネー

ジャ一 山田 晃一 氏（経済学部国際経済学科二一〇〇九年卒・林ゼミ三期生）をお迎えし「世界から電気の無い村をなくそう—アジア・アフリカにおける分散電源への挑戦—」というテーマで講演が実施されました。

山田氏は、本学経済学部在学中に多彩な活動を経験され、二〇〇九年に三井物産株式会社に入社、様々なキャリアを重ねられました。同氏の計画は、ESG (Environment, Social, Governance) の観点を踏まえた、インドにおける分散電源事業の拡充（現地でのICT化の進展を背景とした）、そのことを通じてインドさらにはアフリカの非電化地域に住む低所得者層の生活を向上させるというものです。その計画の事業化までの最前線での取り組みが熱く語られ、参加者は引き込まれるよううに聞き入っていました。

唐成ゼミが「銚子市観光振興プロジェクト」の中間報告を行いました

唐成ゼミが「銚子市観光振興プロジェクト」の中間報告を行いました。

今回の特別授業は、ODAだけでなく民間企業のビジネスが、途上国への発展にどのように関わっていくことができるのか、また、大学での学びがビジネスでどのように役に立つか、さらには総合商社での仕事を通じて醍醐味といったことを直接学び、



感じることができる貴重な機会となりました。

業の課題に対する施策の提案をしました。

四年生四名は「インバウンドによる地方創生—銚子への提案」として訪日中国人を対象としたアンケート調査を実施、詳細な分析をするとともで、ニーズに沿った実現性の高い観光プランを提案しました。

最後に、ご協力いただいている銚子信用金庫、銚子市役所や観光協会の方々との意見交流の時間を設け、今後の課題や施策について活発に議論しました。

同世代の外国人学生との交流は、赤羽ゼミ生にとって大変刺激的なものになりました。

はじめにそれぞれの大学の紹介を行い、その後、班に分かれて「日本と台湾の経済関係」「日本と台湾の大学生活の違い」というテーマで話し合いをしました。

「経済学部創立百周年記念奨学金」募金 中央大学経済学部生のキャリア 形成活動へご支援のお願い

経済学部では、ゼミナール、キャリア教育、グローバル人材育成の三つの実践教育を柱としており、これから社会で活躍する力を養うために、これらの活動やプログラムに積極的に参加することを奨励しております。

千葉県銚子市の地方創生を2年間にわたって研究してきた唐成ゼミの3年生・4年生が、それぞれの研究内容を発表しました。



赤羽ゼミが台湾淡江大学の日文 学科と交流会を実施しました



オープンキャンパスで模擬講義が行われました。

二〇一九年度のオープンキャンパスが八月三日(土)、四日(日)に開催され二名の教員が模擬授業を行いました。

経済学部三船毅教授による「経済学で選挙を見る—投票するか・それとも棄権か—」、経済学部吉見太洋准教授による「為替レートと経済

には尽きようとしておりますが、多様なキャリア形成を目指す学生たちの活動を引き続き金銭面から後押ししたく、「経済学部創立百周年記念奨学金」への追加という形で皆様のご支援を賜りたく、お願い申し上げます。

学部創立百周年を記念して寄せられた寄付を原資に二〇〇九年に創設しました「経済学部創立百周年記念奨学金」では、この十年間で約二百名の学生の活動を後押しし、各々が大きな成果を上げてきました。

その原資である奨学基金が三年後

(学)の二本です。動画はそれぞれQRコードからyoutubeでご覧いただけます(約四十分)。



経済学部創立百周年記念奨学金 募金

目標金額 6,000万円 個人:一口1万円
(なお、金額にかかわらずありがとうございます)

寄付申込・払込方法や税制上の優遇措置など、詳しくはWEBサイトをご覧ください。パソコンからは中央大学ホームページの経済学部トップから下のバナーをクリック。スマートホンからはQRコード読み込んでお進みください。



え、あの先生が シリーズ⑩

経済学部教授 赤羽 淳



平成三十年度(二〇一八年度)に中央大学経済学部に着任いたしました赤羽淳(あかばねじゅん)と申します。

経済学部では経営学の講義のほか、各学年の演習や英語開講科目 Global Leadership

を担当しております。専門は、新興国市場を中心としたものづくり企業の経営でございます。ご挨拶が遅くなりましたが、どうぞよろしくお願ひいたします。

着任してすでに一年半が経ちますが、中央大学の第一印象は「規模が大きい」ということです。前任校は比較的コンパクトな公立大学でしたので、そこと比べると中央大学は、キャンパスも組織構造も巨大に感じた次第です。また着任してからしばらくは、多摩キャンパスで自身が何階にいるのか困惑することも多く、目的の場所までたどり着くのに苦労

しました。学生の数も非常に多く、朝夕の多摩モノレールの駅の混雑ぶりには、今でも圧倒されております。

一方で、そうした「規模の大きさ」の強みだと思いますが、図書館や経理研究所をはじめとする各種施設の充実ぶりにも驚かされました。また貸し出しPC機器類や経済学部図書館にあるグループワーク用施設など、学生向けのインフラも相当程度整っているように見受けられます。

このような環境のもとで、教育、研究活動に励むことができる今の環境を自分は素直に喜んでおります。



教育活動に貴重なフィードバックをもたらしているのも事実です。往時の経験が今の自分のコアコンピタンス(核心的な強み)になっていると、いつても過言ではございません。

もちろん大学は、あくまでも「学問」を研究、教育する場ですので、論文はアカデミックな枠組みで執筆しておりますし、講義やゼミでは経営学の学問体系を中心に教えております。ただ例えば、普段の講義の中における自身の現場での経験談を混ぜてやつたりすると、学生たちの理解力がぐっと深またりします。理論と実践をつなぐ実学の重要さは各所で指摘されていますが、自分のような「亞流」の経歴をもつた人間こそが実学の先頭に立たなければならぬ。大変僭越ではありますが、そのように自らを鼓舞し、これからも教育、研究活動に日々精進してまいりたいと存じます。

編集後記

2019年10月10日 第74号
発行 白門経友会常任幹事会
編集 白門経友会編集委員会
〒192-0393
東京都八王子市東中野742-1
中央大学経済学部内
URL: www.wg-keiyukai.com
Fax: 042-673-3425

秋になると、推薦入試など特別入試のシーズンになり、教員は面接官などの仕事にかり出されます。近年入試にあたって「主体性を持つて多様な人々と協働して学ぶ態度」を評価することが求められています。大勢の受験者が受験する二月の一般入試では難しいので、本学部では、特別入試の中で主体性・多様性・協働性を評価し選抜するために高大接続入試を導入しました。中大経済学部を引っ張っていくような主体性の溢れた学生が受けってくれることを期待したいですし、教員には、そのような可能性を秘めた学生を見抜く眼力が求められます。